

関税局長からのメッセージ



関税局長
阪田 渉

税関は本年(令和4年)11月28日に150周年を迎えます。明治開国以来長きにわたり、税関は貿易秩序の維持及び日本の経済の発展に大きな役割を果たしてきました。この150周年という節目は単なる通過点ではなく、税関が新たな時代を切り拓くための契機でもあります。

税関は様々な新しい課題に直面しています。税関で押収される不正薬物は6年連続で1トンを超えました。深刻な状況が続く中、不正薬物などの社会悪物品の流入を防ぐ税関の責務は重みを増しています。また今後、2023年のG7サミット、2025年の大阪・関西万博などの国際的な大イベントが控えており、テロ対策などの厳格な取締りと円滑な通関の両立に万全を期すことが期待されています。

直近の状況を見ると、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための外出自粛に伴ってネットショッピングの利用が拡大したことにより、航空貨物の輸入許可件数が激増しています。関税局・税関は我々の生活に直結する物流に精通する機関として大きく関与しています。

国際的な動きとしては、本年1月1日に日本の主要貿易国である中国などとの初めての経済連携協定であるRCEP協定が発効しました。現在、経済連携協定発効済・署名済の相手国と

の貿易額は、日本の貿易総額の約8割となっています。経済連携協定の利用機会のさらなる拡大が見込まれているなか、通関業務を行う税関に求められる役割はますます重要となっています。

税関では、サプライチェーンの変化やデジタル化の加速など、新たな環境変化を見据え、ドローンやAI(人工知能)といった先端技術の活用も開始しており、今後も一層の業務の高度化、効率化や利用者の利便性向上などを図っていかなくてはなりません。

税関には、こうした様々な課題に的確に対応しながら、「安全・安心な社会の実現」「適正かつ公平な関税等の徴収」「貿易の円滑化」という3つの使命を着実に遂行することが求められています。

税関が次世代へと大きく飛躍し、「世界最先端の税関」となるためには、若い皆さんの前例に囚われない柔軟な発想が不可欠です。様々なバックグラウンドを持つ皆さんとともに、税関職員の幅広い活躍の場を通じて新たな時代を切り拓き、将来の税関の礎を築いていく日が来ることを楽しみにしております。

世界最先端の税関を目指して

経済活動のグローバル化が急速に進む中、3つの使命を税関は果たしています。

税関の使命

1 安全・安心な社会を実現する

銃器・不正薬物・知的財産侵害物品等の密輸を阻止するとともに、我が国におけるテロ行為を未然に防止することにより「世界一安全な国、日本」を構築

2 適正かつ公平に関税等を徴収する

約9.1兆円すなわち国税収入の約14.1%に相当する額を徴収する歳入官庁として、適正かつ公平に関税等を徴収

3 貿易の円滑化を進める

国際物流におけるセキュリティを確保しつつ、民間企業との協力やIT化の推進などを通じ、通関手続を一層迅速化

税関職員は、5つの行動指針に則って、3つの使命遂行に取り組んでいます。

税関職員の行動指針

- ◎ 誠実に行動し、社会からの信頼と期待に応えます。
- ◎ 誇りと使命感を持って、業務に取り組みます。
- ◎ 円滑なコミュニケーションを図り、チームで前進します。
- ◎ 改善意識を高め、日本と世界の変化に機敏に対応します。
- ◎ 自ら学び考え、プロフェッショナルとして成長します。

